

口頭表現法

I 回目

教科書

仁科浩美(2020)

『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』、くろしお出版

※スライド内でページ数を示す場合は、教科書の該当ページを示す。

LI 学習目標 (p.6)

- 「発表」と「プレゼンテーション」の用語の使い方を理解する
- アカデミック・プレゼンテーションの種類や特徴を理解する

1. 「発表」と「プレゼンテーション」(p.6)

自分が研究した内容を他の人に知ってもらうために発表を行う

例1) ~について論文に発表する

例2) ~について研究会で発表する

話すことにより考えを伝える

→本授業では、学会や研究会などで発表する前段階として、
まずは大学内で発表するために身につけるべきことを学習します。

1. 「発表」と「プレゼンテーション」 (p.6)

プレゼンテーション give a presentation, deliver a presentation

- 発表する側が聞き手に何かを与える、提供する
- 聞き手のことを考えながら情報を伝えることが大切



「プレゼンテーション」：何かを紹介したり、企画を提示し説明する

「発表」：学会や研究会など**学術的場面**

(聞き手を意識し、何かを伝える気持ちを大切にすることは
「プレゼン」と同じ)

2. 大学で行う発表の種類 (p.7)

①口頭発表：

スライド資料などを見せながら説明

②ポスター発表：

大きい用紙に研究内容をまとめ、発表する

③報告会での発表：

ゼミや研究室で、自分の研究の進捗について報告する

④輪講や輪読での発表

研究する分野における重要な文献を読んでいく

卒業研究発表
学会
研究会

外部の人

ゼミ
研究室

3. 発表の3つのポイント (p.8)



*教科書のイラストをもとに生成AIにて作成

A: 発表スピーチ

伝える内容と言葉

非言語（表情、身振り、態度）

声の大きさ、スピード、話し方

B: 発表資料の提示

色、デザインなど視覚的工夫

C: 発表後の質疑応答

聞き手からの質問やコメント

意見交換→新たな視点や考えを学ぶ

これまでの自分の発表から考える (p.9)

- ①いつ (例：高校生)
- ②どこで (例：日本語のクラス)
- ③誰に (例：クラスメイト)
- ④何について (例：日本文化)
- ⑤発表時間 (例：20分)
- ⑥提示したもの (例：スライド)

⇒書き終わったら、隣の人に説明してみてください。

成功した発表、上手だと思った発表（p.10）

1

自分の発表で成功したもの

①いつ

②どこで

③誰に

④何について

⑤発表時間（質疑応答含む）

⑥うまくいったと思う点

2

他の人の発表で上手だと思ったもの

①いつ

②どこで

③誰に

④何について

⑤発表時間（質疑応答含む）

⑥うまくいったと思う点

3

自分たちがどのような発表を「上手だ」と評価しているかを考え、話し合しましょう。

タスク (p.11)

A～Dの発表について、その**目的、聞き手、気を付けるべきポイント**などを話し合ってください。

A：大学の最初の授業で、初めて会ったクラスメイトに自分の専門について紹介する

B：小学校の国際理解教育の授業に招かれ、小学生の前で自分の国について紹介する

C：自分が考えた新しい商品を、会社の企画会議で上司や同僚の前で説明する

D：卒業発表会での研究について、学科の先生や他の学生の前で説明する

	A	B	C	D
目的	例) 自分のことを覚えてもらい、クラスメートと良い関係が作れるようにする。			
聞き手	大学生のクラスメート			
気を付けるべきポイント	違う専門分野の人にもわかりやすいように、専門的な用語は使わないようにする。			

	A	B	C	D
目的	自分のことを覚えてもらい、クラスメイトと良い関係が作れるようにする			
聞き手	大学生のクラスメート			
気をつけるべきポイント	違う専門分野の人にもわかりやすいように、専門的な用語は使わないようにする。			

	A	B	C	D
目的	自分のことを覚えてもらい、クラスメイトと良い関係が作れるようにする	自分の国について興味をもってもらう		
聞き手	大学生のクラスメイト	小学生、こども		
気をつけるべきポイント	違う専門分野の人にもわかりやすいように、専門的な用語は使わないようにする。	・小学生が興味を持ちそうなトピックを選ぶ ・絵や写真を使って、飽きないようにする		

	A	B	C	D
目的	自分のことを覚えてもらい、クラスメイトと良い関係が作れるようにする	自分の国について興味をもってもらう	商品の販売許可をもらう	
聞き手	大学生のクラスメイト	小学生	上司	
気をつけるべきポイント	違う専門分野の人にもわかりやすいように、専門的な用語は使わないようにする。	・小学生が興味を持ちそうなトピックを選ぶ ・絵や写真を使って、飽きないようにする	商品についてどんなに優れた点があるか、売れる可能性が高いことをアピールする	

	A	B	C	D
目的	自分のことを覚えてもらい、クラスメイトと良い関係が作れるようにする	自分の国について興味をもってもらう	商品販売の許可を上司にもらう	自分の行った研究の成果を話し、評価をもらう
聞き手	大学生のクラスメイト	小学生	上司・同僚	先生・学生
気をつけるべきポイント	違う専門分野の人にもわかりやすいように、専門的な用語は使わないようにする。	・小学生が興味を持ちそうなトピックを選ぶ ・絵や写真を使って、飽きないようにする	商品が優れたもので、売れる可能性が高いものであることをアピールする	・目的、方法、わかったことを論理的に説明する ・客観的なデータをもとに、話す

アカデミックプレゼンテーションの特徴(p.12)

- 何のために話すのか（目的）

疑問解明／問題解決のために行った研究について、聞き手に結論や成果を説明し、新しい情報の共有や意見交換を行うため

- 何について話すのか（内容）

研究してわかったことや考えたことについて

- 誰が聞くのか（聞き手）

研究室の人、同じ学科・専攻・分野の人、先生、学生

- 自分の考えを理解してもらうために必要な情報は何か
客観的なデータや正確な事実